

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

会議名称	21年度第2回杉並区地域自立支援協議会（案）								
日時	平成21年12月1日（火）14：00～16：00								
場所	区役所西棟6階第6会議室								
<p>&lt;出席者&gt;            高山由美子委員（会長）、佐藤弘美委員（副会長）、小野寺肇委員、柏木美子委員、鈴木美佳子委員、反町龍弘委員、菊地英治委員、加藤恵愛委員、田中直樹委員、笹谷亨子委員、木村菜穂子委員、前木秀規委員、島川稜子委員、春山陽子委員</p> <p>&lt;幹事&gt;            保健福祉部障害者生活支援課長：末久 秀子            保健福祉部障害者施策課長：大森 房子            保健福祉部杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：片山 康文</p> <p>&lt;事務局&gt;            障害者生活支援課 諸沢洋子、鈴木久、望月俊彦、池田 恵子            障害者施策課 阿部茂年、本館睦美</p>									
<p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会あいさつ</li> <li>2 会長あいさつ</li> <li>3 議題               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢障害者の支援について～包括支援センターとの交流会の報告等と今後の方向性について(相談支援部会から)</li> <li>(2) 障害者の地域医療について(地域移行促進部会から)</li> <li>(3) 発達障害者の相談支援について</li> <li>(4) 地域で実施されているネットワークの現状について</li> <li>(5) 報告                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労の状況について</li> <li>・障害者グループホーム・ケアホームの設置・運営に関するガイドラインについて</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>4 その他               <ul style="list-style-type: none"> <li>次回 日程等</li> </ul> </li> <li>5 閉会</li> </ol>									
<p>【配布資料】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">資料1 - 1</td> <td>相談支援部会の報告</td> </tr> <tr> <td>1 - 2</td> <td>ケア24と相談支援部会との交流会に参加してのアンケート集計表</td> </tr> <tr> <td>資料2 - 1</td> <td>地域移行促進部会の第2回までの討議の中間報告</td> </tr> <tr> <td>2 - 2</td> <td>のノートの概要</td> </tr> </table>		資料1 - 1	相談支援部会の報告	1 - 2	ケア24と相談支援部会との交流会に参加してのアンケート集計表	資料2 - 1	地域移行促進部会の第2回までの討議の中間報告	2 - 2	のノートの概要
資料1 - 1	相談支援部会の報告								
1 - 2	ケア24と相談支援部会との交流会に参加してのアンケート集計表								
資料2 - 1	地域移行促進部会の第2回までの討議の中間報告								
2 - 2	のノートの概要								

# 杉並区地域自立支援協議会 議事録

- 資料3 障害がある方の地域医療についてのアンケートの概要  
資料4 - 1 発達障害者の支援の実態（事例は当日配布のみ）  
4 - 2 発達障害者の療育の現状(1 発達障害への支援、2 どう対応したか)  
資料5 杉並区内の障害者に関わる連絡会議体  
資料6 区内障害者授産施設・作業所の就労件数

参考1 平成21年度事業所別相談支援事業所件数(4月～10月)

参考2 情緒障害学級在籍児童・生徒数推移

参考3 こども発達センターにおける専門相談の状況

別紙 杉並区地域自立支援協議会今後のスケジュール

別冊 杉並区障害者グループホーム・ケアホームの設置・運営に関するガイドライン(席上配布のみ)

## 【内容】

### 1 開会あいさつ

省略

### 2 会長あいさつ

省略

### 3 議題

- (1) 高齢障害者の支援について～包括支援センターとの交流会の報告等と今後の方向性について(相談支援部会から)(資料1-1・2参照)

<資料説明(春山委員より)>

<意見交換>

65歳になる障害者が介護保険制度のサービスへ移行するとき、制度の違い、サービス内容の違いなどがあるので、利用者にとってわかりにくく、説明や引継ぎが難しい。本人や家族に不安を与えることもある。ケア24と相談支援事業者が交流する機会ができ、与える不安を少しでも和らげることにつながると感じている。この機会を持って良かったと思う。また、包括のケアマネや地域のケアマネは、障害者制度のことを考えながら支援するケースを持っているので、良い機会になったと思う。障害者の制度やサービスについて、ケアマネ側の理解もまだまだ十分ではないと感じる。

顔見知りを増やす交流会となった。介護保険制度のサービスを利用するとき、障害者本人や家族は、障害者制度のサービスがどのくらい継続できるのかを知らないで、介護保険サービスを活用する本人や家族の理解、移行するための準備や期間が欠かせない。今回の交流会では、高齢者のケアマネジメントと障害者のケアマネジメントとの違いや相互に大事にしている点を確認し合うことができたと感じている。

65歳になる障害者が介護保険制度のサービスへ移行する場合、どこに相談してよいか分からなかったため、今回の交流会は大きな投げかけだったと思う。社会福祉協議会でも障害者のケースがあり、成年後見人制度やあんしんサポートでも関わるので、次回は参加さ

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

せて欲しいと考えている。

高齢者と障害者を対象とした入所施設で、障害者の相談支援事業をしていると、65歳以上の障害者から、ショートステイ利用の問い合わせがある。この場合、高齢者のショートステイ利用をお願いしている。また、問い合わせでは、障害者と高齢になった親と一緒に入所できる施設への期待が話される。

通常は介護保険に移行する2か月前から手続きができるので2か月前くらいから移行の準備を開始すると聞いている。ただ、移行に困難が予想される場合は6か月くらい前から準備を進めるケースがあるようだ。やなぎくぼでは2年後くらいに介護保険に移行する方がいるので、本人や家族に情報提供を始めている。福祉事務所のケースワーカーがヘルパー支給量の更新時の聞き取りをする予定があり、やなぎくぼも同席して相談することになっている。

介護保険制度の被保険者になることの説明を福祉事務所から受けていないケースもある。相談支援事業所からも移行するための準備を伝えていければと考える。

障害者自立支援法がどのようになるかわからないが、相談支援事業は各市町村一番にあげられている事業であり、区でもまず行うことと位置付けている。報告にあるような相談支援事業所の主体的取り組みがある。ケースを回さない。ワンストップの対応、適切などころへつなげること、このつなげる役割分担をはたせるように考える必要がある。

**今後は、ケア24と相談支援部会とのさらなる連携を経て、障害者が介護保険制度のサービス対象になるときの支援に活かしていければと思う。**

### (2) 障害者の地域医療について(地域移行促進部会から)(資料2 - 1・2、資料3参照)

<資料説明(地域移行促進部会長より)>

<資料3への意見>

アンケート集計と報告で表れてくるものが、意味あるもの、訴えの根拠となるように、設問項目を考えてほしい。

医師会と話すときの根拠となるアンケートとして考える。アンケートを書く人がサッと書いてサッと出せるものにしていきたい。薬局に行ったときや医療機関でのコミュニケーション、服薬情報などを柱にし、困っている内容を把握できるアンケートにしたい。

アンケートに表れてきた数が、伝えたい内容の根拠とならないこともあるので、統計的にも意味のある基礎データにつながるアンケートづくりになればと思う。

抗てんかん薬などの調整薬を使用しているということで、受け入れてくれる病院が見つからない時があった。在宅障害者や障害者の施設が体験したこのような医療機関の利用しにくさをアンケートで伝えていきたい。在宅障害者・施設入所の障害者としては、受け付けてくれる医療機関情報がほしいと思う。

アンケート結果をどのようにあつかっていくか、回収数をどのくらいに設定するか、上記のような実態をまとめるときにどう表現していくかなどが、仮説立証型のアンケートづくりで問われるところである。

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

アンケートを実施する目的や集計結果をどうしていきたいかがあると良いのではないかと。困っている内容を伝えることを目的にするのであれば、その項目をつくれればよい。また、先の意見のように、受け入れてくれる病院がないのであれば、受け入れてくれるまで掛け合っていくことが大切、一回受けてもらえれば、それが突破口となる。

医者も障害者を診ることが不安なのだと思う。障害者の対応について医者がこの不安を払拭できるような、医師に対してサポートするネットワークシステムが必要なのではないかと。

脳性まひと伝えたことで薬が変わり、次の日起きられなかった。受診した時の症状はかゆみで、かゆいと体がよけいに緊張する。医師は脳性まひ＝緊張をなくすと判断して処方したのだろう。

自分で医師に症状などを伝えるようにしているが、医師も看護師も付き添いの方を見て話すので、付き添いは気を利かし、本人が望んでいないことまで話してしまう。医療機関だけの問題ではなく、付き添い側の問題もある。アンケートの中にそういう経験があるかというのも入れてもよいのではないかと。支援者が障害者本人をしっかり見る姿勢も大切だと思う。

内科受診時に精神障害のことを伝えると、人権侵害の言葉が返ってきた。医師のモラルの問題と思うが、医師のひと言で傷ついた経験がある。

他の自治体でも障害者の地域医療の取り組みがある。市川市では、父母の会を中心に3年かけて医師会と話し合っていて進めていた。杉並区でもそんな取り組みができると良い。

**以上の意見を参考に、アンケートにプラスされる項目もあるので、作成作業の中で反映する。**

### < 資料2 - 2 への意見 >

この協議会に医師も入ってくれるといいと思う。

知的障害者の人間ドック事業を行っている。医師の不安をなくすために下準備として聞き取りをする。受診時あるいは医療場面で困難が予想されるか事柄が聞き取られていると役に立つ。緊急時には事前に聞き取ったノートなどがあると役に立つ。

昨年、災害時の支援について検討をしていたが、上記のようなノートがあると役立つと思った。日常生活の状況を付け加えると、震災救援所に来られない在宅障害者への救急対応や健康管理に役立つと思う。

てんかん発作の対応策、病院に行くまでの対応内容、投薬方法についての項目があると良いと思う。

精神障害者のノートでオレンジノートがあった。家族会にはまだ残っていると思う。必要な内容、そうでない内容が記されている。また、使用している薬をこまめに記入すると良く分からなくなることがあった。また、日常生活の中で薬が無くなってから医療機関に行くのではなく、一日分残して受診すると病院は助かると思う。

ファイリング式のノート形態は良いと思う。また、ノートの使い方も提案した方が良く

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

思う。個人情報なので管理を注意していく必要がある。

ノートはオーバーに伝わる場合もあると思う。医師は使用している薬情報は欲しいと思う。

東京都・福祉団体・医師会の中で、今、論議されているようなノートが作られるかもしれないので、参考にしながら進めていきたい。

具体的な内容は部会の中でも話し合っている。これを受けて区が実施する方向で進めていきたい。

ノート作成については、今年度中に地域移行促進部会中でチームを作り、目的、使用方法など大まかなレイアウトを作っていきたい。詳細な点でもご意見あれば事務局までご指摘ください。

### (3) 発達障害者の相談支援について（資料4 - 1・2、参考1～3参照）

< 資料説明（事務局より） >

< 事例報告（前木委員・佐藤委員より） >

< 資料説明（副部長より） >

< 意見 >

社会に出て自分はどうも違うと感じ始め、会社をやめひきこもりになるケースが多くみられる。

相談を受けていると、成長の過程で、知的の障害があるのかも知れないと気付いたり、虐待を受けていたかもしれないと感ずることがある。支援を組み立てる場合、生育歴の情報が重要である。

支援をしていくときには、保健師と一緒にケースを考え、連携して支援していきたい。特別支援学校生徒の約6.3パーセントが知的障害を伴わない発達障害児(文科省調べ)との報告を聞いたことがある。手帳を持っていない生徒支援が課題であると考え。特別支援教育での取り組みとして、校内委員会などをつくり、高等学校にも発達障害向けのチーム支援などを行い始めている。チャレンジスクールなどにもアスペルガー的な生徒に対してモデル的に支援の取り組みを始めている。

障害の自己受容ができていのかどうかを考えながら、精神障害者保健福祉手帳保有のメリット・デメリットを考慮し支援する必要があると感じている。本人の症状が変わってくれば手帳の保有を進めないが、就職活動の場合は手帳を保有していた方が就職の間口が広がってくる。

今20代の方は、上記のような教育がなかったため、社会に出てなぜ自分は他の人と違うか分からないまま過ごすこととなったと思う。発達障害者への対応では、自分の苦手なところとご本人がこういうところは可能であるということを見通せることが大切と考えている。

対人関係が苦手の方が、就労先の先輩が休んだことを気にし、仕事に集中できなくなった。職場の職員たちは、この行動が障害のこだわりととらえていなかった。本人の障害の特性

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

に対する周囲(環境)の理解がすすむように支援することの大事さを感じる。  
アスペルガーの方の就労支援をした時、こだわりが強くイライラする様子が強く出てしまい、仕事が手につかなくなってしまった。原因がよくわからず発達障害者の関わり方の難しさを感じる。

現在、区では発達障害者の相談をどこで受けるか明確になっていない。相談支援事業が発達障害者の相談を受けながら非常に苦勞している。区の障害福祉計画の中では発達障害者の専門相談を考えているので、何らかの形で連携が図れるように進んでいければと考える。

発達障害は軽度の知的障害の方を含めると幅広く、しっかり支援する環境が必要である。あんしんサポートの相談では、判断能力の支援が必要と感じる方や消費者被害に合っている方の中に精神の枠で対応するケースが見られる。

大人になってから、社会生活が上手く出来なくなり、社会性を身につけるためにボランティアをすすめられ、ボランティアセンターに来る方もいる。

**引き続き部会で検討していただくが、相談支援の連携とはどんなものかについての具体的に話が聞ければと思う。**

### (4) 地域で実施されているネットワークの現状について(資料5参照)

<資料説明(事務局より)>

資料の訂正...「杉並区内の障害者に関わる連絡会議体」資料の「精神障害者共同作業所・グループホーム連絡会の開催回数」月1回 年数回に訂正。現場レベルでは月1回実施。

<意見>

既存のネットワークと協議会をつなぐという考え方の提案が、前回の協議会では落ちていたと思う。このつなぐということについて意見をいただきたい。

精神では連絡会から推薦されて協議会に出ている。委員の選出のあり方も考えてはどうか。

年3回の協議会では議論の時間が少ないと感じている。協議会の下には、もう少し部会があって良いと思う。これから障害者にとってどんなサービスが足りないのか考え、杉並独自のサービスをつくる障害福祉サービス部会などが必要と考える。

現場の中から課題がたくさん上がってくるはず。そこを吸い上げ、協議会でどういうサービスがあれば良いかを話し合ってもよいと感じる。

既存の会議体の機能を活かして、会議体の中で必要なサービスについての意見や課題をあげてもらう。会議体から出た意見や課題を協議会にあげるためには、機能を持った会議体と協議会とのつながりや仕組みづくりが必要となると考えられる。

**資料で提示されているネットワーク(会議体)でどんな議論がされているかを提出してほしいと思う。ネットワーク(会議体)と協議会とのつながりづくりに向け、部会のあり方を考えて**

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

いただければと思う。

### (5) 報告

- ・就労の状況について（資料6参照）

資料説明（事務局より）

補足説明 現在、就労支援事業から一般就労した人は0人、就労移行事業を廃止した事業所は1ヶ所ある。就労継続支援B型事業所・小規模作業所からの就労者もチャレンジ雇用が中心で、一般企業への就労は厳しい状況である。

- ・障害者グループホーム・ケアホームの設置・運営に関するガイドラインについて

20年度の自立支援協議会の提案を受けて、21年9月に別冊をガイドラインを作成したので、グループホーム事業所・世話人などに配布した。

### 4 その他

次回 平成22年3月12日（金）午後

### 5 閉会

以上